

# 長浜市小中学生の生活実態に関する アンケート調査結果について (概要版)

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、市内の小学生、中学生を対象に、普段の生活の実態や困りごと等を尋ね、ヤングケアラーの認知度を高めるとともに、長浜市としてどのような支援が必要なのかを検討し、支援に繋げるための基礎資料とするために実施しました。

### (2) 対象者

| 調査対象 |     |                                     |
|------|-----|-------------------------------------|
| 1    | 小学生 | 市内の小学校および義務教育学校に通う5年生、6年生           |
| 2    | 中学生 | 市内の中学校に通う1年生～3年生および義務教育学校に通う7年生～9年生 |

### (3) 調査方法

各学校の各クラスで先生の指導のもと、児童に付与されているタブレットを利用して回答  
(タブレットが利用できない場合は紙媒体)

### (4) 調査期間

令和6年5月7日から令和6年6月18日

### (5) 回収状況

|   | 対象  | 対象校数 | 対象児童数  | 回答数    | 回収率   |
|---|-----|------|--------|--------|-------|
| 1 | 小学生 | 25校  | 2,035人 | 1,807件 | 88.8% |
| 2 | 中学生 | 17校  | 3,127人 | 2,723件 | 87.1% |
|   | 合計  |      | 5,162人 | 4,530件 | 87.8% |

### (6) その他

令和2年、3年に実施された全国子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(厚生労働省・文部科学省)を参考に全国の実態と比較しました。

＜全国調査結果として参考としているデータの出典＞

令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書  
(厚生労働省・文部科学省) ※小学6年生対象

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書  
(厚生労働省・文部科学省) ※中学2年生対象

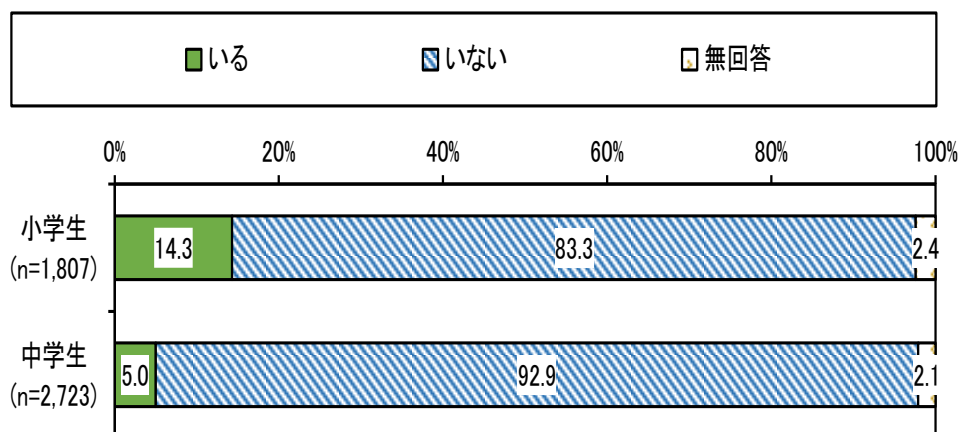
## 2. 調査結果のポイント

### (1) 世話をしている家族の有無

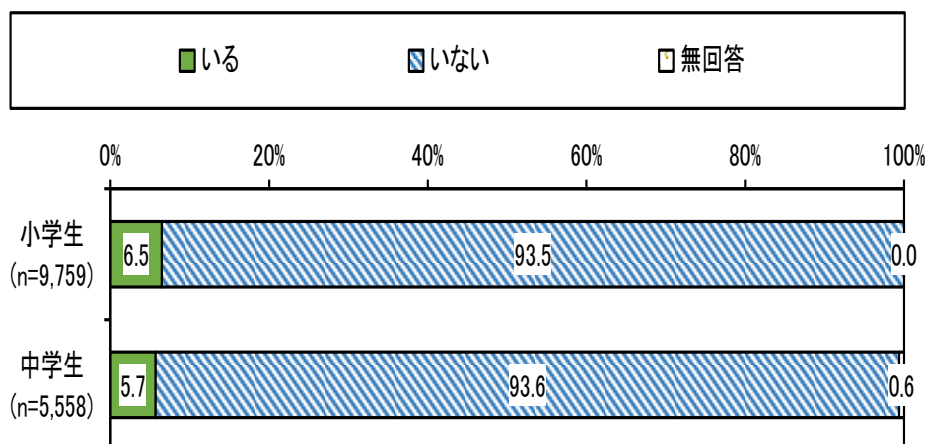
問 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。【小学生：問 12、中学生：問 12】

全国結果と比較すると、長浜市では小学生の「いる」が全国に比べて高くなっています。

#### ◆長浜市



#### ◆全国



## (2) 世話をしている頻度

問 どれくらいお世話をしていますか。【小学生：問 15－3】

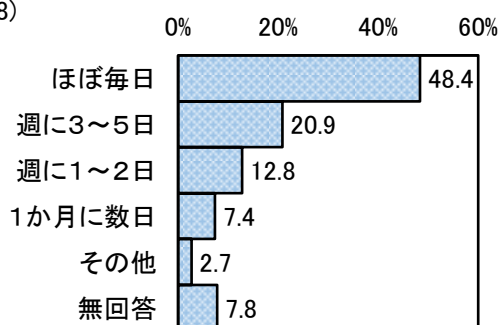
問 お世話をしている頻度を教えてください。【中学生：問 20】

世話をしていると回答した人のうち、小学生では、「ほぼ毎日」が48.4%、中学生では、「ほぼ毎日」が37.0%で最も高くなっています。全国結果と比較すると、いずれも、全体的な回答傾向は同様ですが、「ほぼ毎日」は低くなっています。

### ◆長浜市

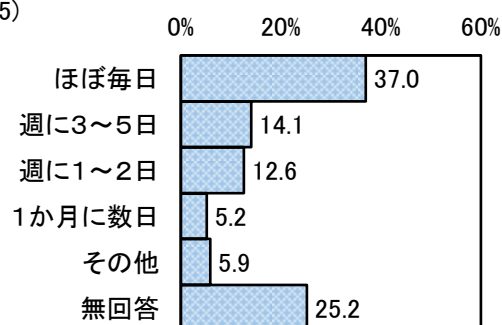
【小学生】

(n=258)



【中学生】

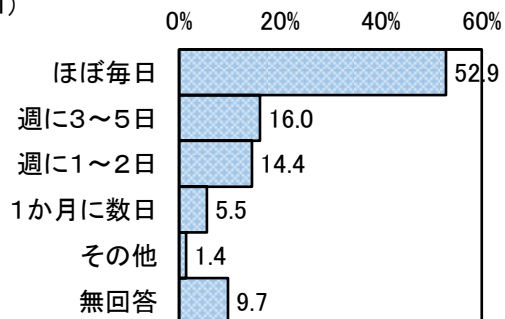
(n=135)



### ◆全国

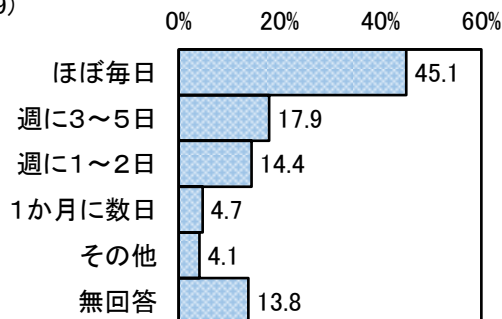
【小学生】

(n=631)



【中学生】

(n=319)



(3) 世話をしているためにやりたいけれどできていないこと

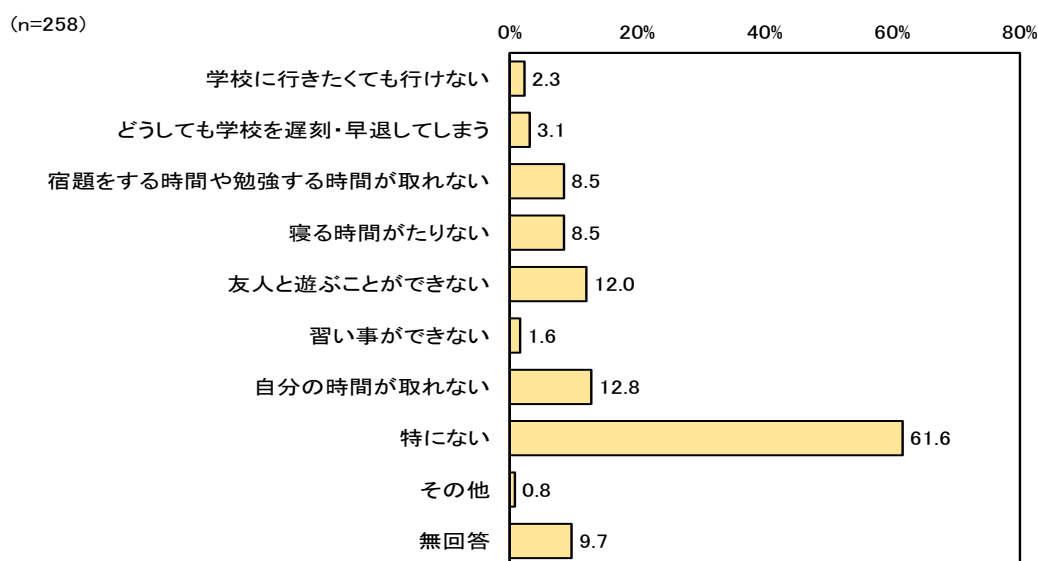
問 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。

【小学生：問 15－5、中学生：問 22】

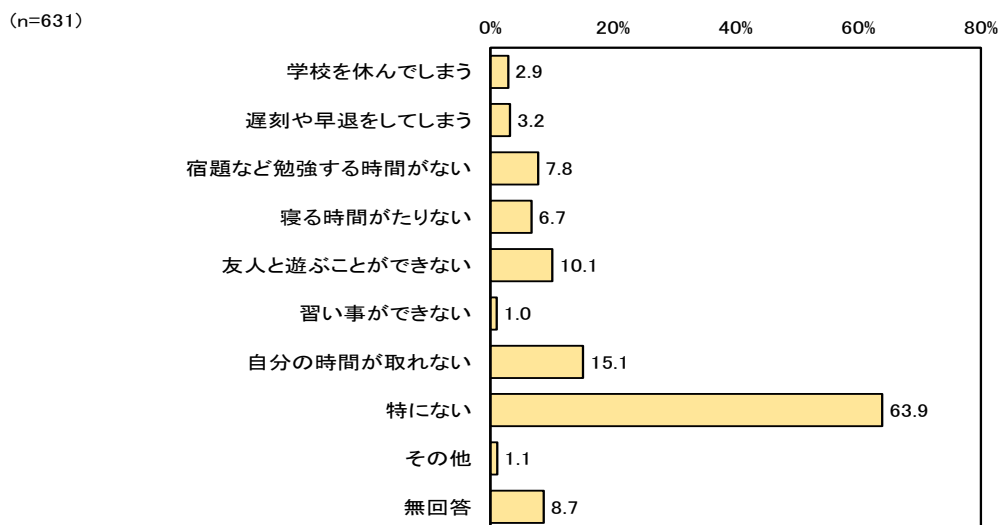
小学生では、「特にない」が61.6%で最も高く、次いで「自分の時間が取れない」が12.8%、「友人と遊ぶことができない」が12.0%、となっています。全国結果と比較すると、項目がいくつか異なりますが、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「寝る時間がたりない」、「友人と遊ぶことができない」などが全国よりも高い傾向にあるものの、全体的な回答傾向は同様です。

中学生では、「特にない」が54.1%で最も高く、ついで、「睡眠が十分に取れない」が8.9%、「友人と遊ぶことができない」が6.7%、となっています。全国結果と比較すると、「睡眠が十分に取れない」が全国よりもやや高くなっています。

◆長浜市（小学校）

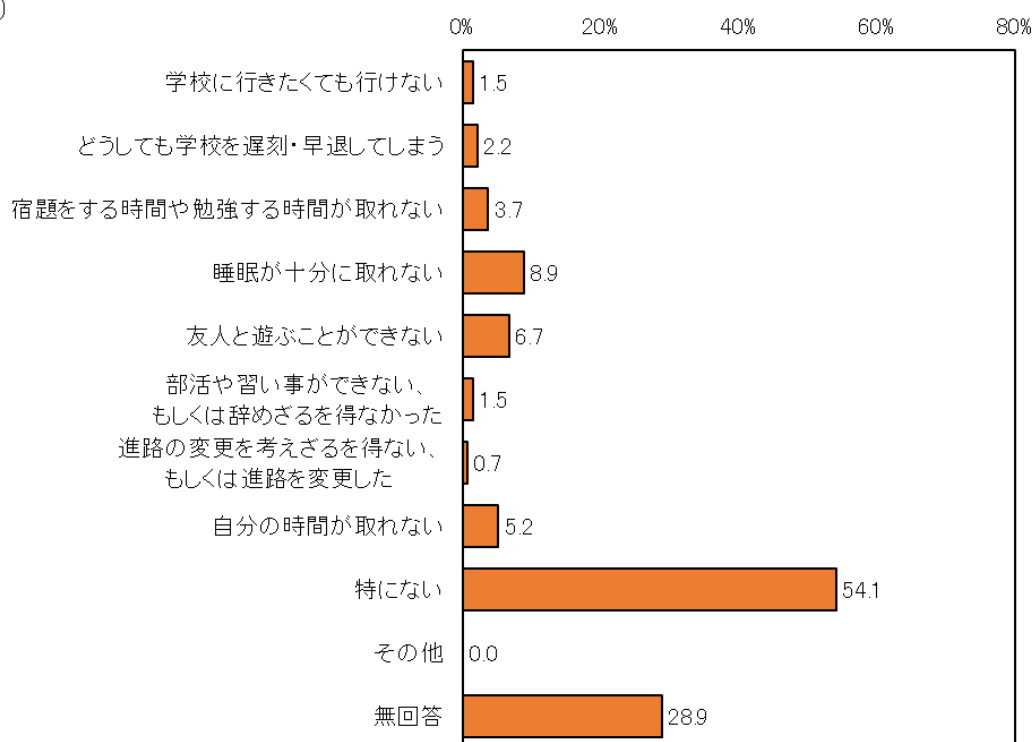


◆全国



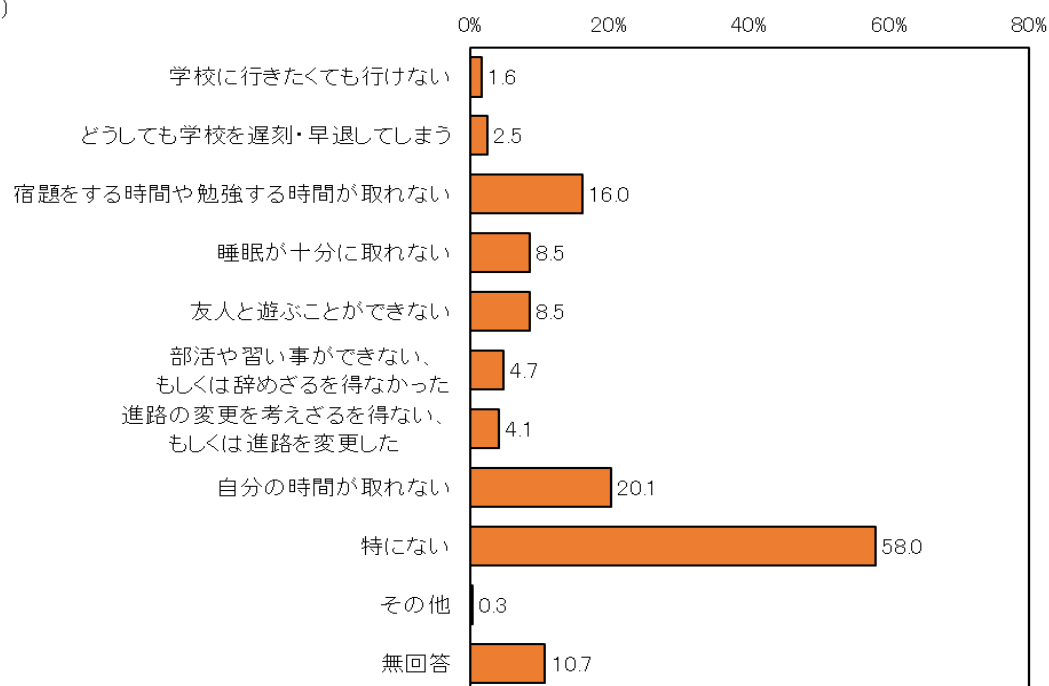
◆長浜市（中学校）

(n=135)



◆全国

(n=319)



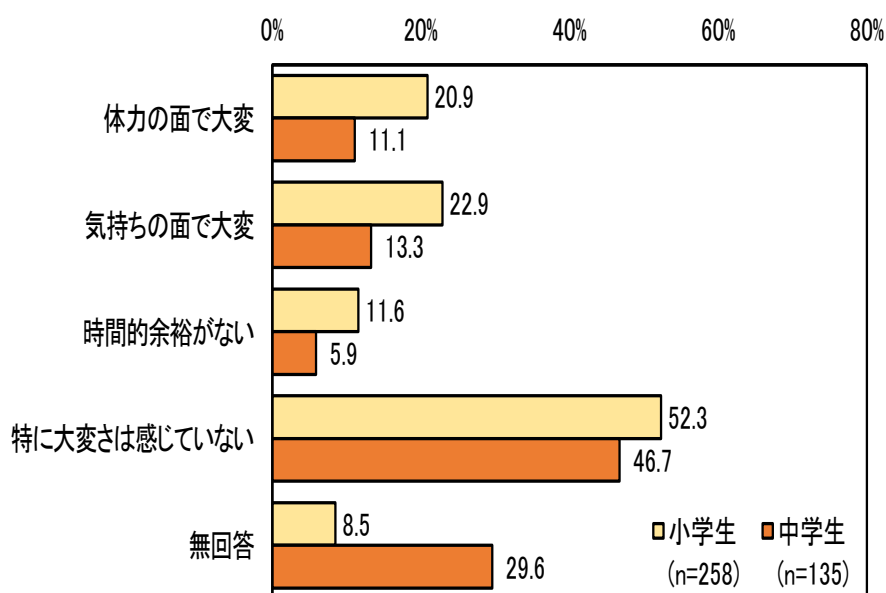
#### (4) 世話の大変さ

問 お世話をすることに大変さを感じていますか。【小学生：問 15－6、中学生：問 23】

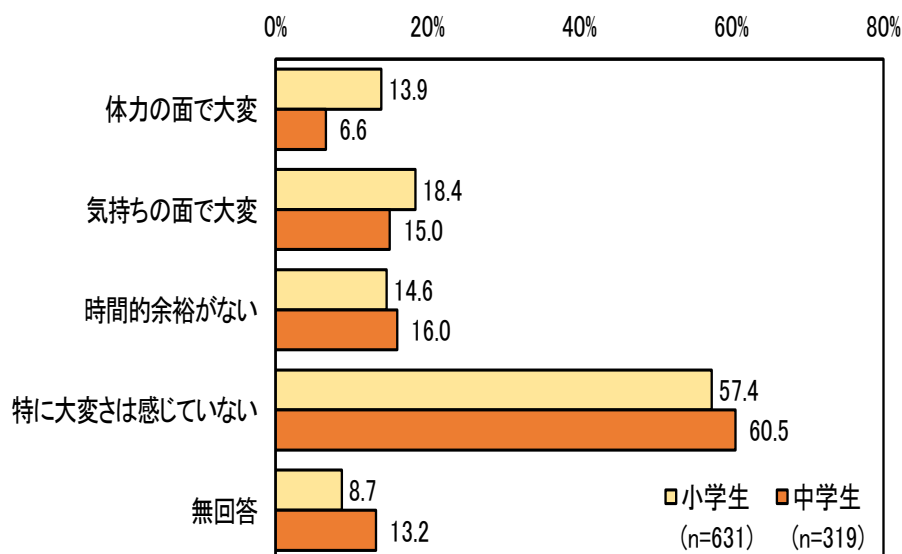
小学生では、「特に大変さは感じていない」が52.3%で最も高く、次が「気持ちの面で大変」が22.9%となっています。全国結果と比較すると、「気持ちの面で大変」が最も全国より高くなっています。

中学生では、「特に大変さは感じていない」が46.7%で最も高く、次が「気持ちの面で大変」が13.3%となっています。全国結果と比較すると、体力の面で大変、気持ちの面で大変、時間的余裕がないについて、いずれの回答も全国よりも低くなっています。

##### ◆長浜市



##### ◆全国

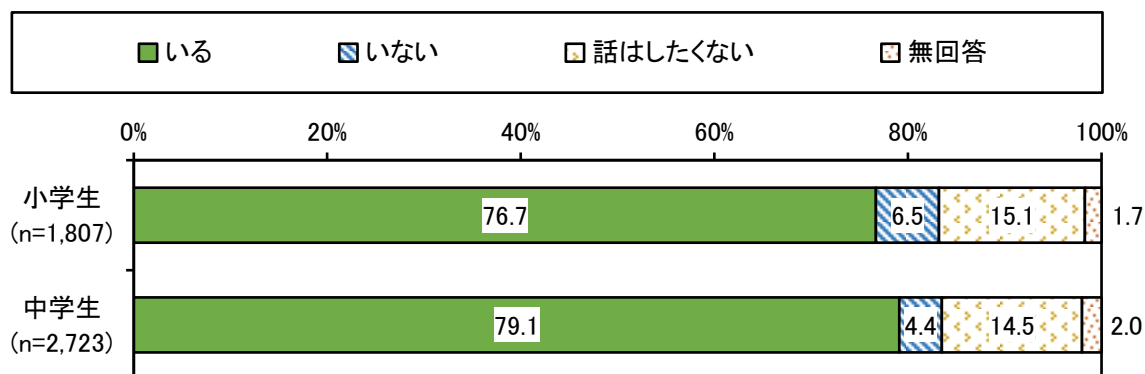


(5) 相談相手の有無

問 悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

【小学生：問 11－2、中学生：問 11－2】

小学生では「はい」が76.7%、中学生では「はい」が79.1%となっています。



(6) 相談の有無

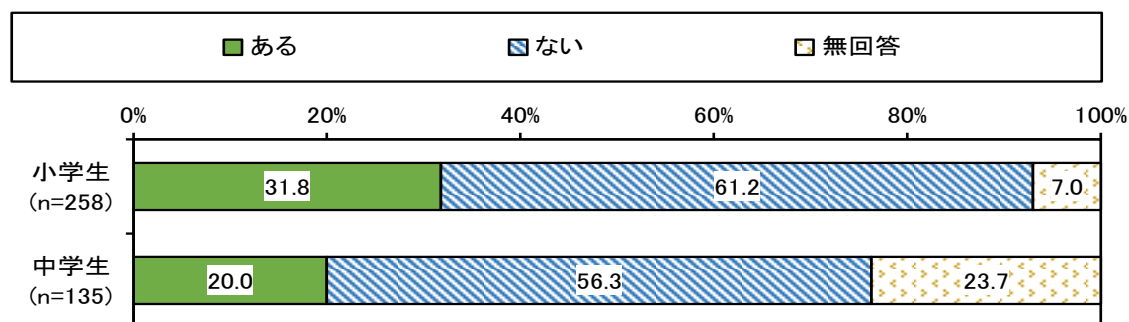
問 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

【小学生：問 16、中学生：問 24】

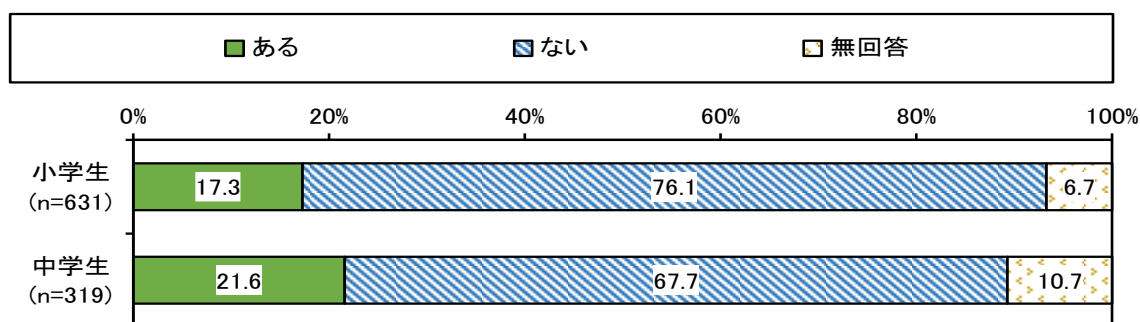
小学生では、「ある」が31.8%、中学生では、「ある」が20.0%となっています。

全国結果と比較すると、小学生の「ある」が全国よりも高くなっています。

◆長浜市



◆全国

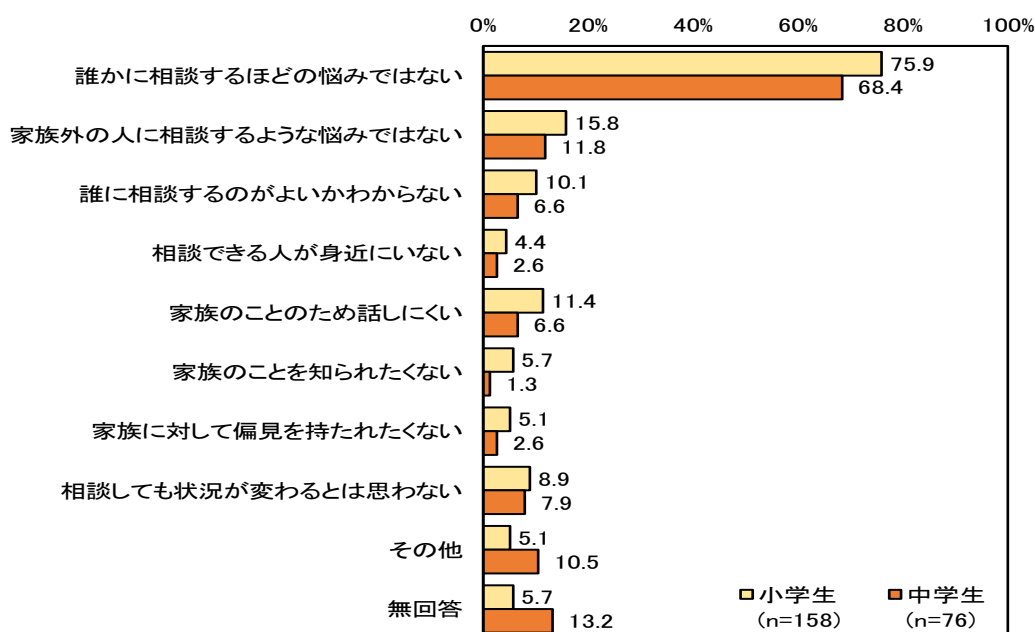


問 問 16（問 24）で「2. ない」を回答した方にお聞きします。相談していない理由を教えてください。【小学生：問 18－1 中学生：問 26－1】

小学生では、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 75.9%で最も高く、次いで「家族外の人に相談するような悩みではない」が 15.8%、「家族のここのため話しにくい」が 11.4%となっています。全国結果と比較すると、「誰かに相談するほどの悩みではない」、「誰に相談するのがよいかわからない」、「家族のここのため話しにくい」が全国よりも高くなっています。

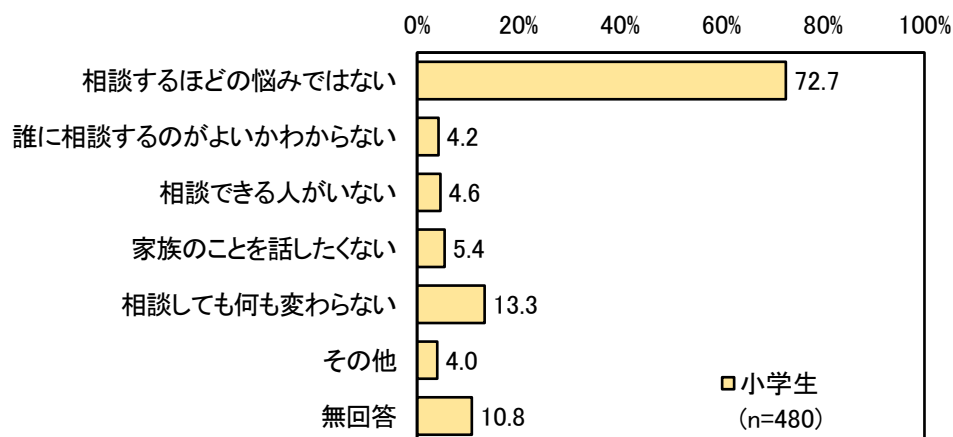
中学生では、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 68.4%で最も高く、次いで「家族外の人に相談するような悩みではない」が 11.8%、「相談しても状況が変わると思わない」が 7.9%となっています。全国結果と比較すると、いずれの回答も全国よりも低くなっていますが、全体的な回答傾向は同様となっています。

#### ◆長浜市



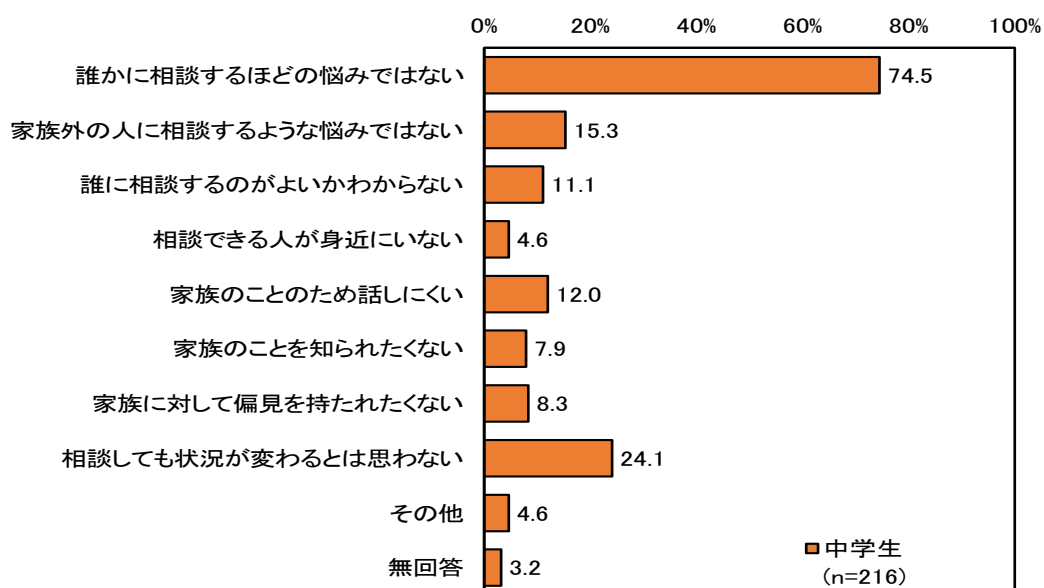
#### ◆全国

【小学生】





## 【中学生】



## (7) 学校や周囲の大人に助けてほしいことや、必要としている手助け

問 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

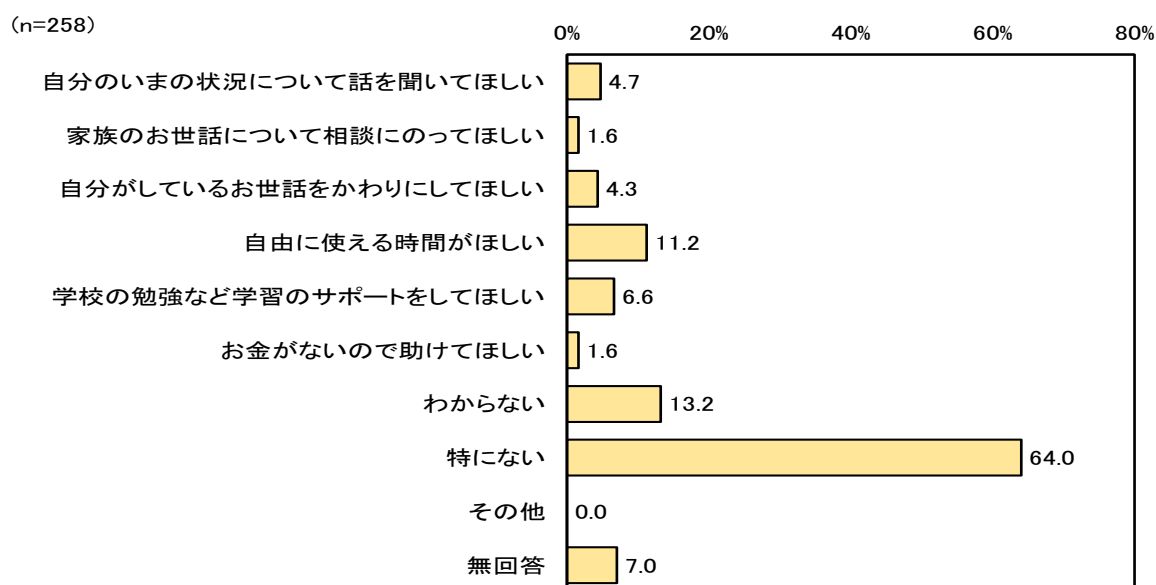
【小学生：問 19、中学生：問 27－1】

小学生では、「特にない」が64.0%で最も高く、次いで「わからない」が13.2%、「自由に使える時間がほしい」が11.2%となっています。

中学生では、「特にない」が53.3%で最も高く、次いで「わからない」が9.6%、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が8.1%となっています。

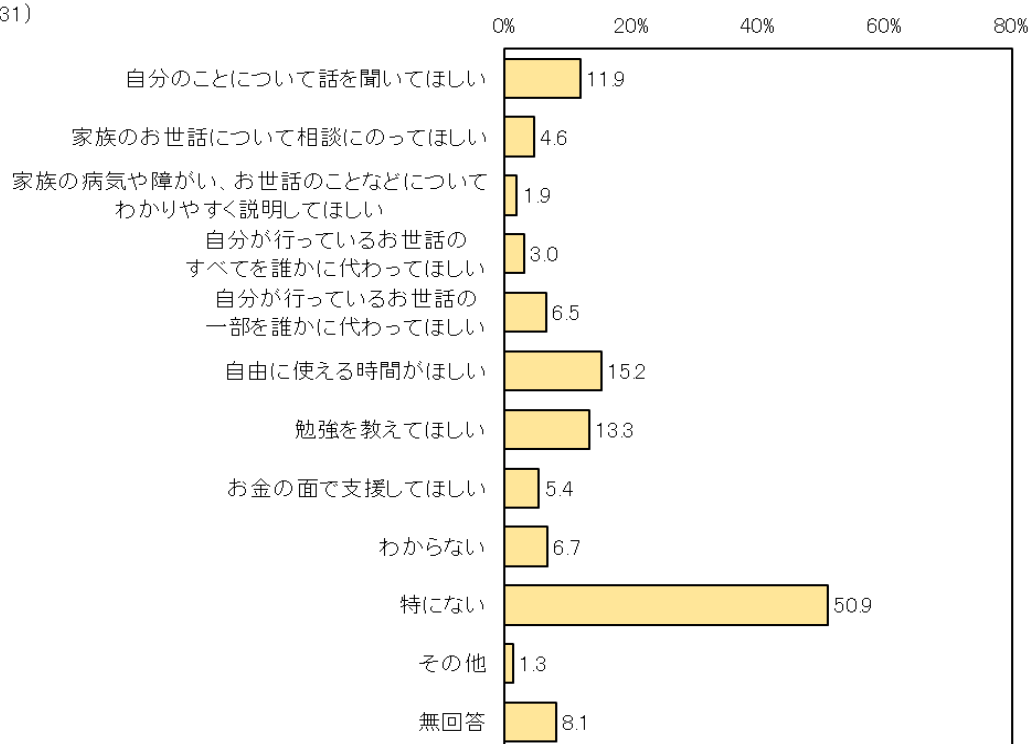
小学生、中学生いずれも全国結果と比較すると、「特にない」が全国よりも高くなっています。

## ◆長浜市（小学校）



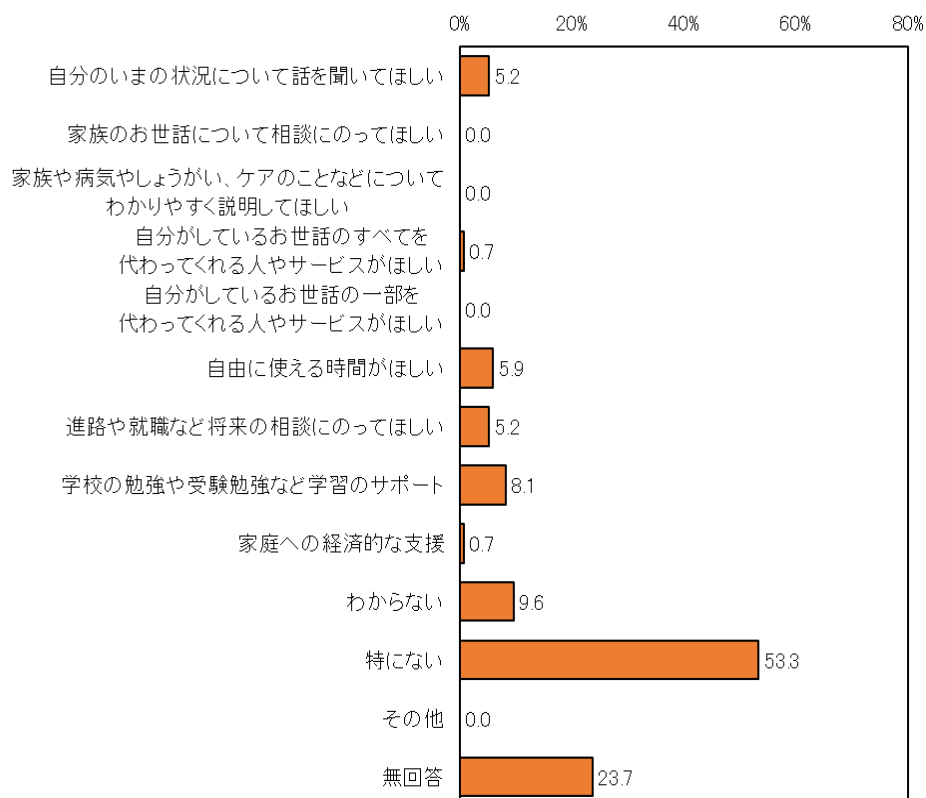
# ◆全国（小学校）

(n=631)

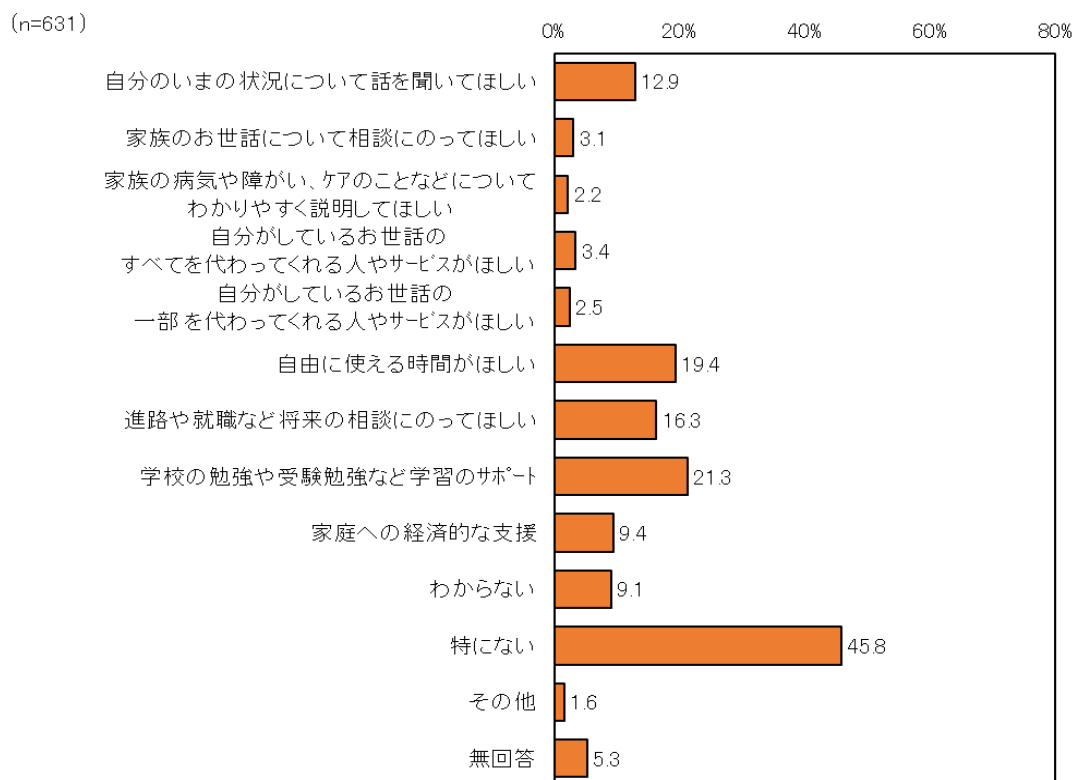


# ◆長浜市（中学校）

(n=135)



# ◆全国（中学校）



## （８）ヤングケアラーの認知度

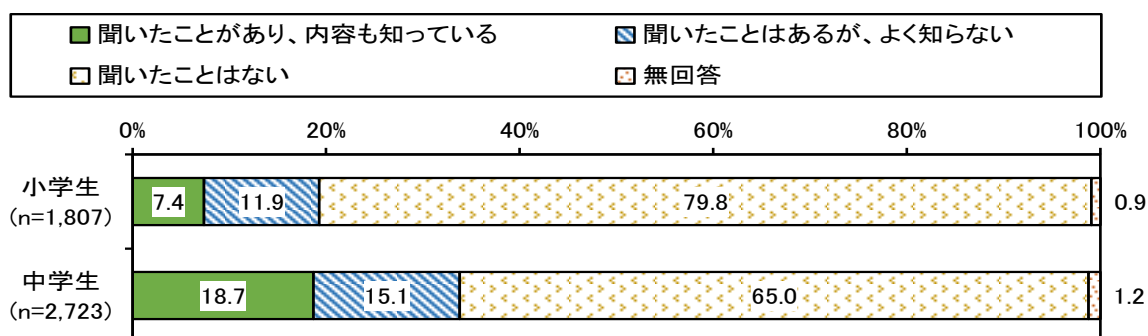
問 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

【小学生：問 21、中学生：問 29】

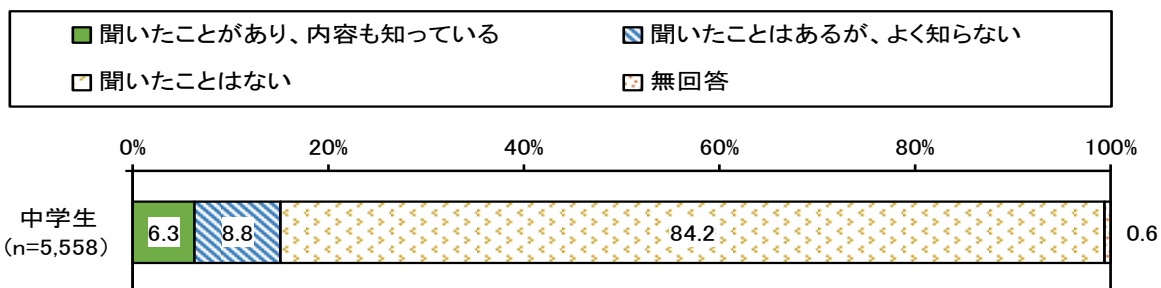
小学生では、「聞いたことがあります、内容も知っている」が小学生では7.4%、中学生では18.7%となっています。「聞いたことはない」が小学生では79.8%、中学生では65.0%となっています。

中学生について、全国結果と比較すると、「聞いたことがあります、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」がともに全国よりも高くなっています。

## ◆長浜市



◆全国（中学生のみ）

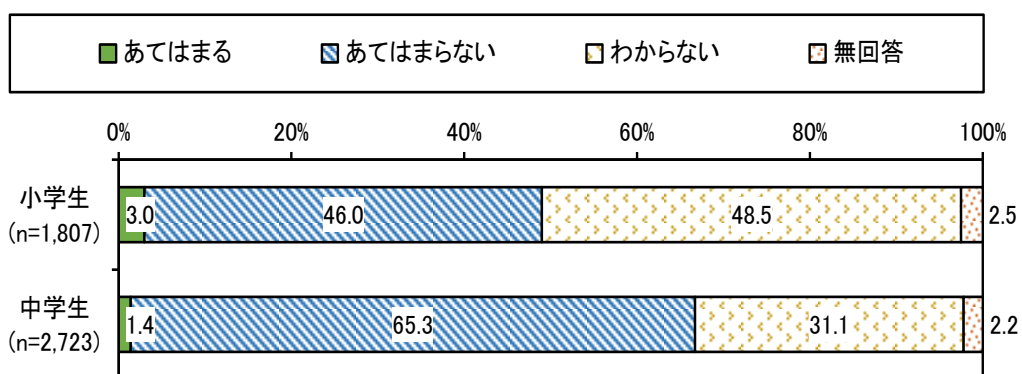


(9) ヤングケアラーにあてはまるか。

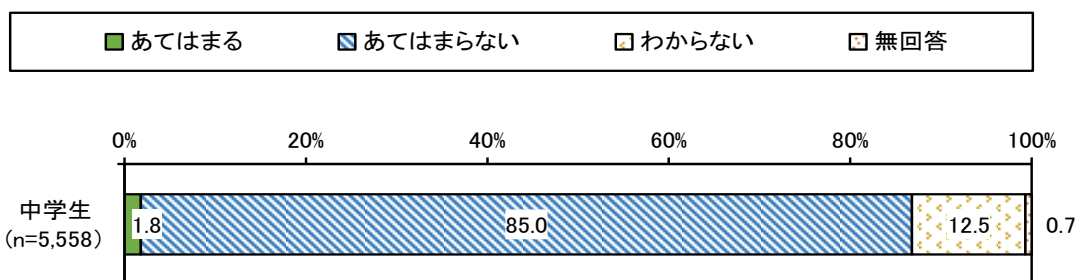
問 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。【小学生：問 23、中学生：問 31】

「当てはまる」は小学生が3.0%、中学生が1.4%となっています。

中学生について、全国結果と比較すると、「わからない」が全国よりも高くなっています。



◆全国（中学生のみ）



## クロス集計

調査結果について、いくつかをクロス集計して分析しました。

### (10) 家族の世話の有無×普段の学校生活

問 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。【小学生、中学生：問 12】

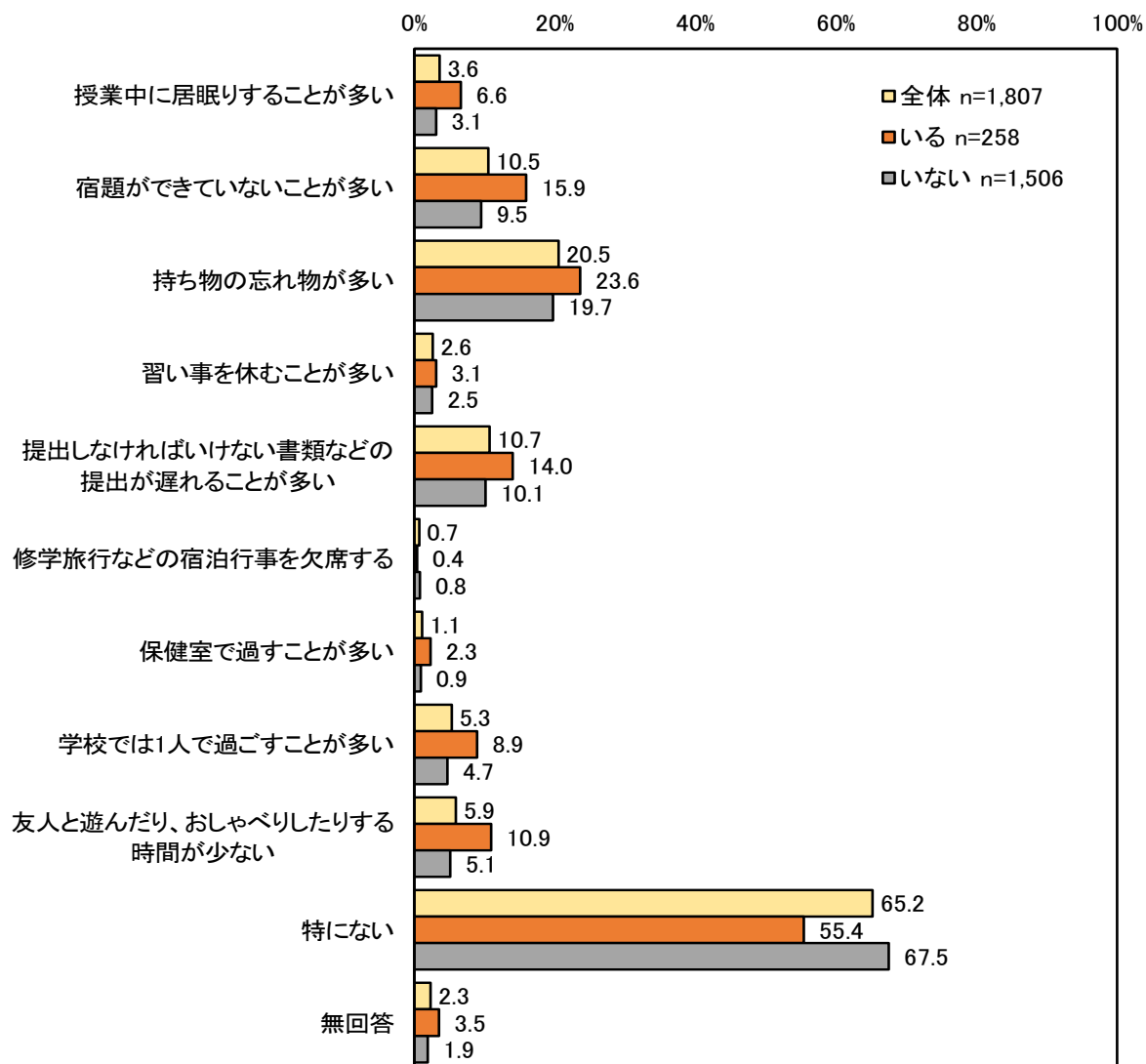
×

問 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。【小学生、中学生：問 10】

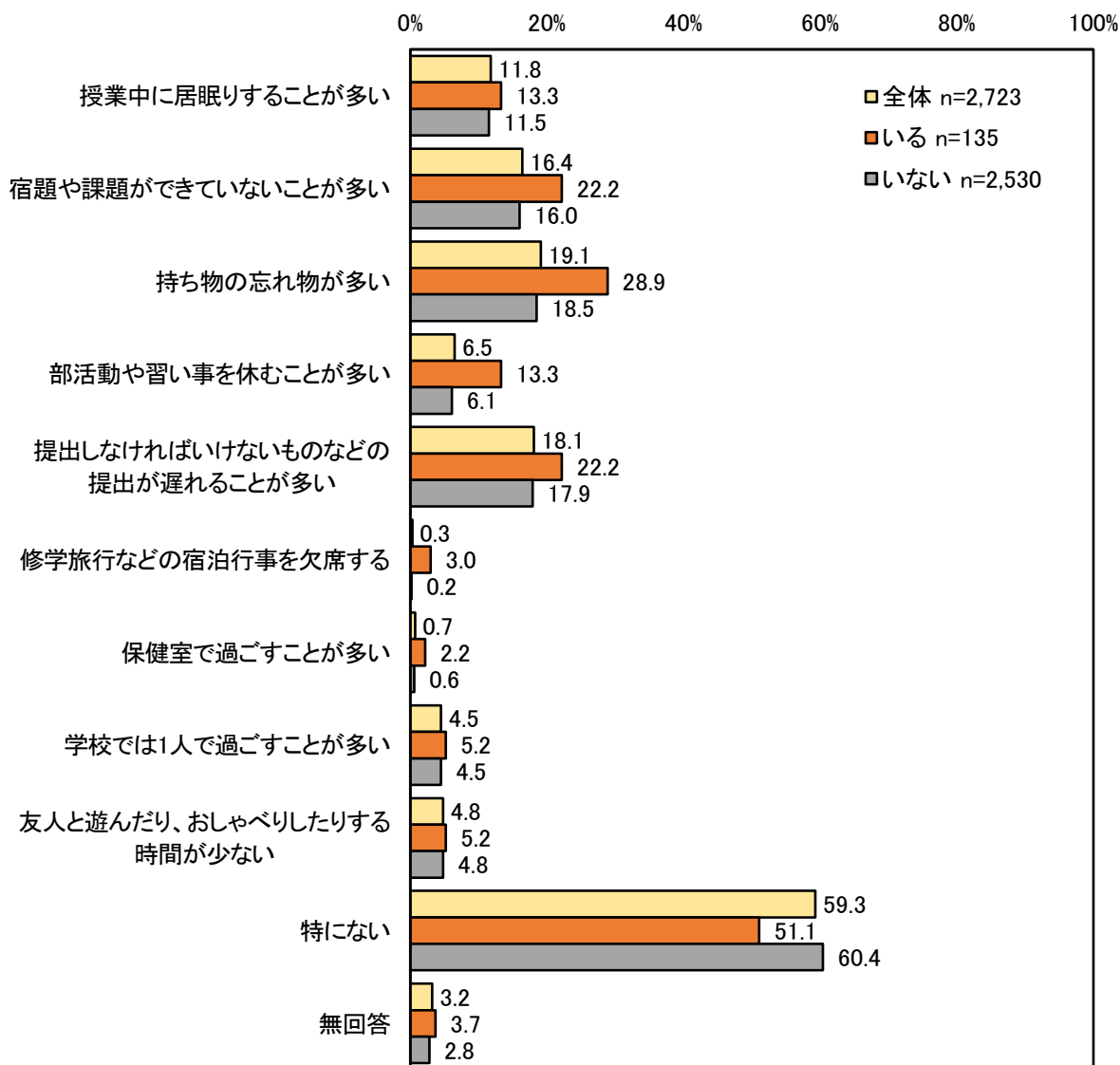
小学生の「いる」の回答は「いない」の回答に比べて、各項目の値が全体的に高くなっています。特に、「宿題ができていないことが多い」は 6.4 ポイント、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」は 5.8 ポイント高くなっています。

中学生の「いる」の回答は「いない」の回答に比べて、各項目の値が全体的に高くなっています。特に、「宿題ができていないことが多い」は 6.2 ポイント、「持ち物の忘れ物が多い」は 10.4 ポイント、「部活動や習い事を休むことが多い」は 7.2 ポイント高くなっています。

#### ◆小学生



◆中学生



(11) お世話の頻度×健康状態

問 15－3 どれくらいお世話をしていますか。【小学生：問 15-3 中学生：問 20】

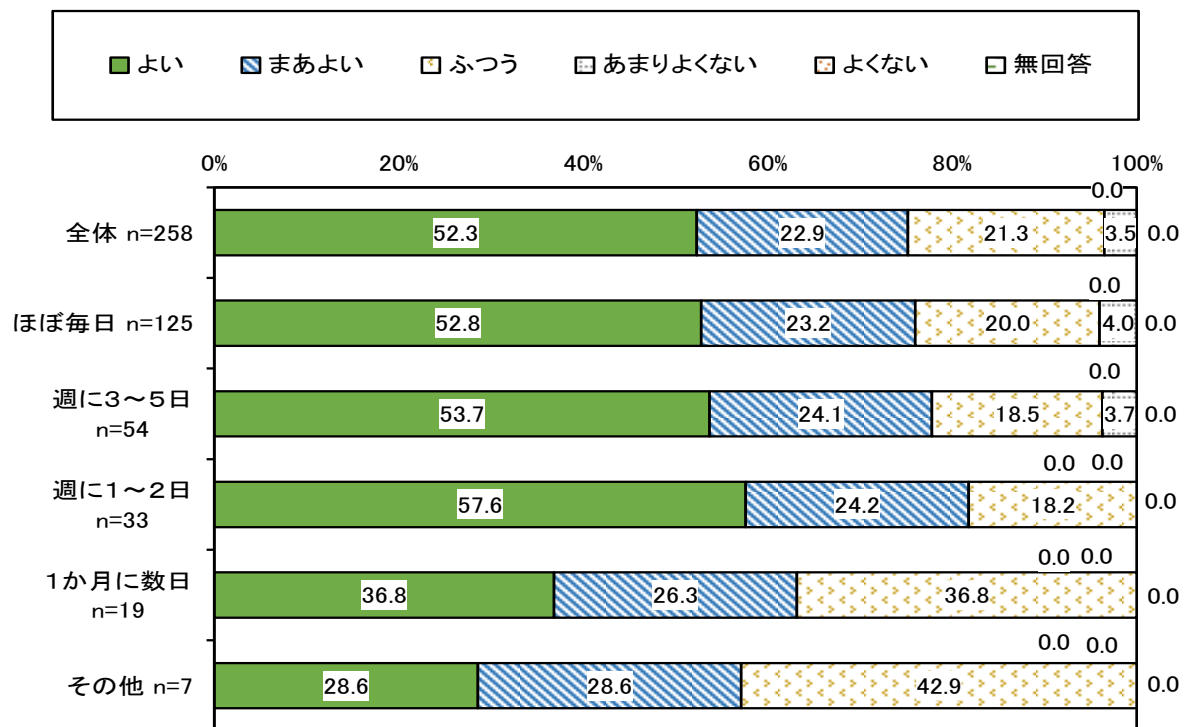
×

問 5 あなたの健康状態について教えてください。【小学生：問 5 中学生：問 5】

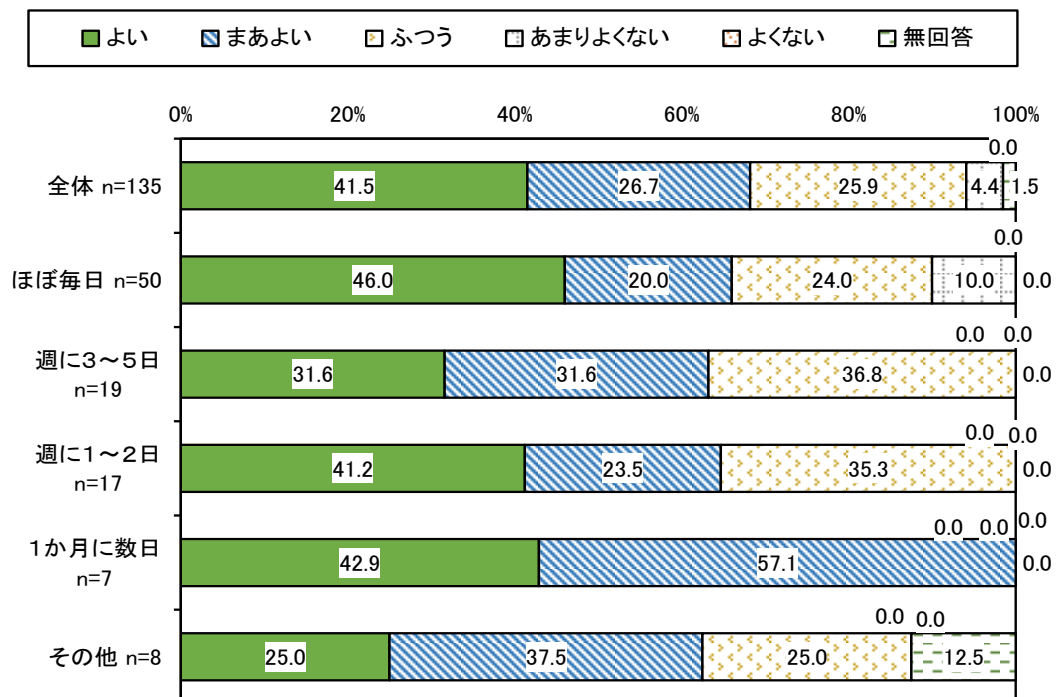
小学生は、「あまりよくない」の回答は、「ほぼ毎日」お世話をしている回答者の中で 4.0%、「週に 3～5 日」お世話をしている回答者の中で 3.7%となっており、お世話の頻度が「週に 1～2 日」以下には見られませんでした。

中学生は「あまりよくない」の回答は、「ほぼ毎日」お世話をしている回答者のみで見られ、その割合は 10.0%となっています。

◆小学生



◆中学生



(12) 世話をすることの大変さ×お世話についての相談経験

問 お世話をすることに大変さを感じていますか。【小学生：問 15-6、中学生：問 23】

×

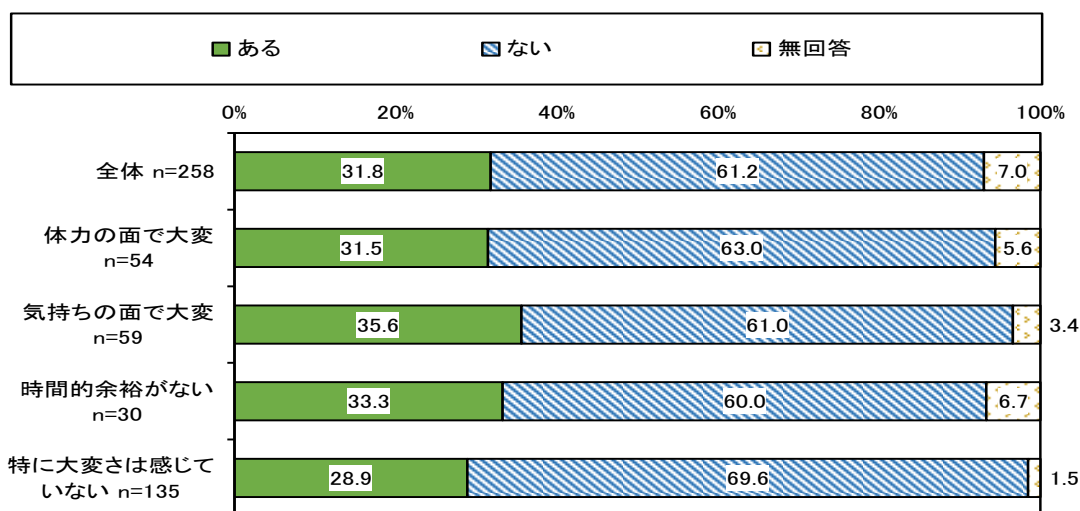
問 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

【小学生 問 16 中学生 問 24】

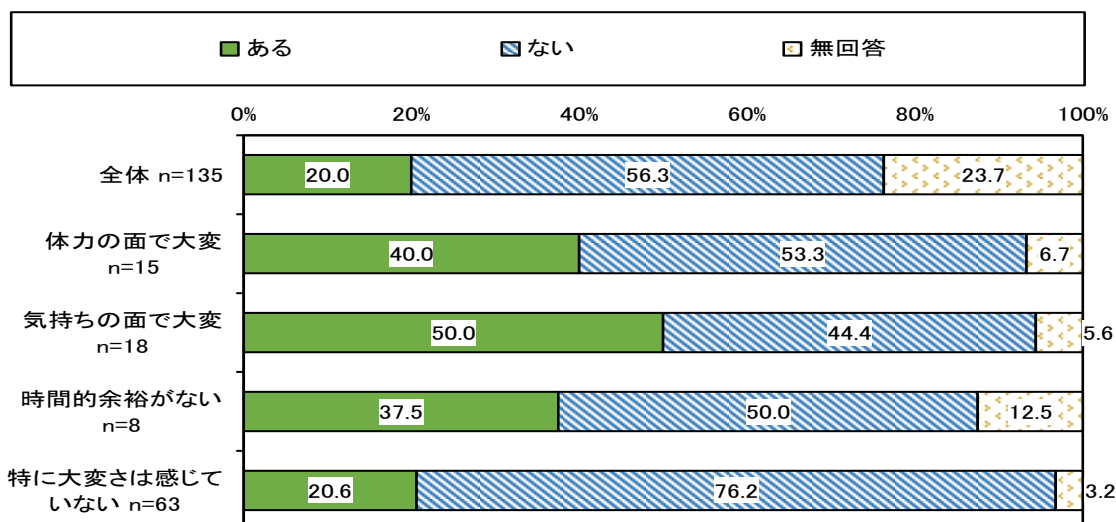
小学生は、相談経験が「ある」の割合は、「気持ちの面で大変」の回答者で最も高くなっています。相談経験が「ない」の割合は、「特に大変さは感じていない」の回答者で最も高くなっています。

中学生は、相談経験が「ある」の割合は、「気持ちの面で大変」の回答者で最も高くなっています。相談経験が「ない」の割合は、「特に大変さは感じていない」の回答者で最も高くなっています。また、大変さを感じている中でも、「体力面で大変」と「時間的余裕がない」の回答者では、相談経験が「ある」よりも「ない」の割合が高く、その差は 10 ポイント以上となっています。

◆小学生



◆中学生





### (13) ヤングケアラーにあてはまると思うか×お世話についての相談経験

問 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。【小学生：問 23、中学生：問 31】

×

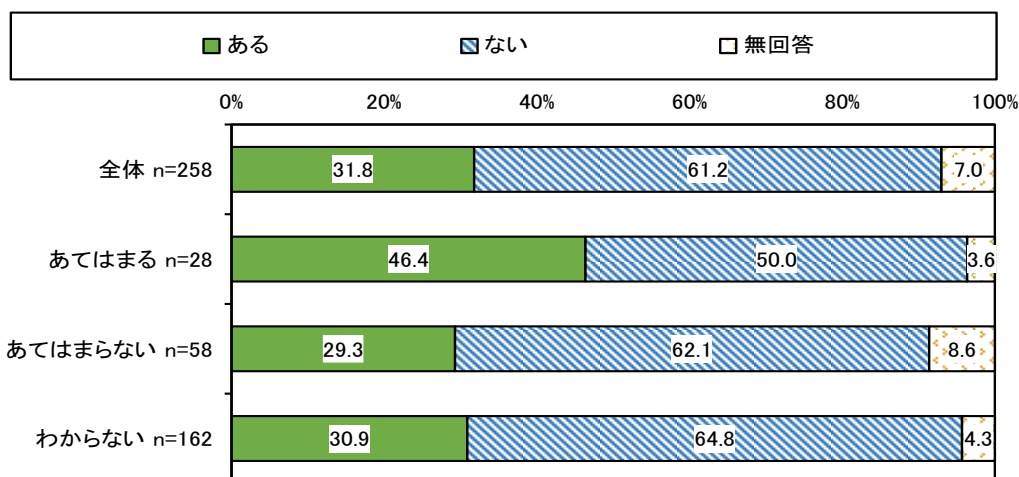
問 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

【小学生：問 16、中学生：問 24】

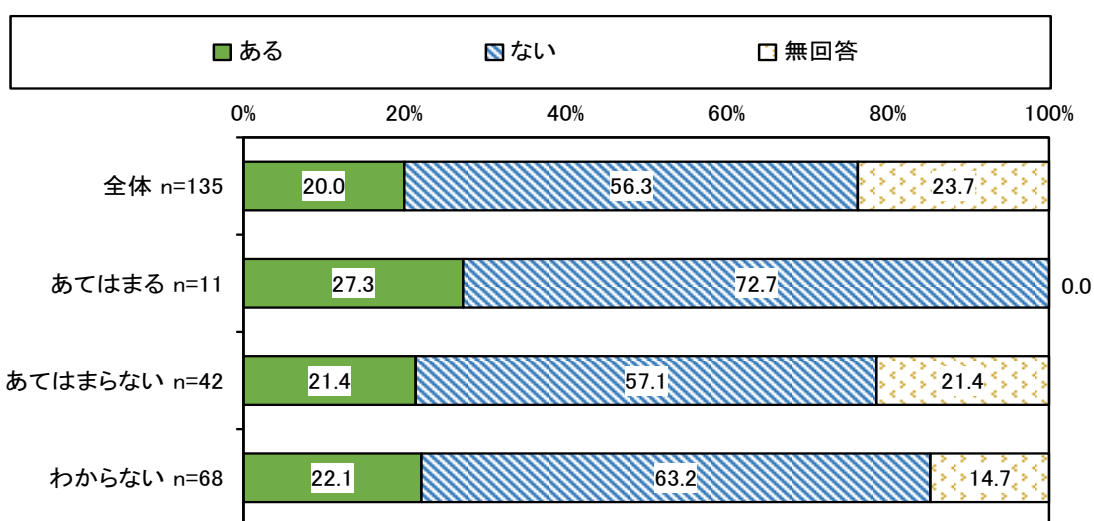
小学生が相談経験が「ある」の割合は、ヤングケアラーに「あてはまる」と思う人が「あてはまらない」と思う人に比べ、17.1 ポイント高くなっています。ただ、ヤングケアラーに「あてはまる」と思う人の中でも、50.0%の人は、相談経験が「ない」と回答しています。

また、中学生が相談経験が「ある」の割合は、ヤングケアラーに「あてはまる」と思う人が「あてはまらない」と思う人に比べ、5.9 ポイント高くなっています。ただ、ヤングケアラーに「あてはまる」と思う人の中でも、72.7%の人は、相談経験が「ない」と回答しています。

#### ◆小学生



#### ◆中学生



### 3. まとめ

家族の世話をしている小中学生について、家事や見守りなど、何らかの世話をしていることがわかります。世話の大変さについて、「特に大変さは感じていない」という回答が半数近くを占めていますが、次に「気持ちの面で大変」という回答が小学生では 22.9%、中学生では 13.3%あり、一定のストレスがあることがわかります。

また、令和2年度から国でアンケート調査が実施され数年が経過していますが、「ヤングケアラーについて聞いたことがない」という回答が小学生で 79.8%、中学生が 65.0%あり、未だに認知度が低いことがわかりました。

その他、相談しない理由について、「誰かに相談するほどの悩みではない」が圧倒的に高いものの、「誰に相談するのがよいか分からない」、「相談できる人が身近にいない」も少なからずあり、相談しやすい環境づくりが必要です。学校や大人に求めている支援については、「特にない」という回答が半数以上を占めていますが、小学生では「自由に使える時間がほしい」11.2%、中学生では「学校の勉強や受験勉強等の学習のサポート」8.1%とあり、本人に寄り添う支援が求めていることがわかります。

### 4. 今後の取組と課題

令和6年度に施行された子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律で、ヤングケアラーを国・地方公共団体等によるこども・若者支援の対象として明記されるなど、全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充を進めていく必要があることから、本市においても、引き続き、施策を検討、実施していきます。

また、当該アンケート結果は、現在策定中の長浜市未来こども若者計画の基礎資料としても必要な調査であり、当該計画に盛り込んでいきます。

#### (1) ヤングケアラーの周知や啓発

市ホームページやアプリ、出前講座等を利用して、児童生徒をはじめ、こどもを取り巻く大人に対しても周知や啓発を進めていきます。また、長浜市未来こども若者計画へも明記していきます。

#### (2) 相談体制の充実

今回、相談したい人の中で記名いただいた児童もいましたが、記名できなかった人もいると推察されます。また、自分がヤングケアラーにあてはまると思っていると回答した中で、誰かに相談したことがないとの回答数が、小学生、中学生ともに 50%以上であることから、引き続き学校や地域など身近なところで相談できるような体制を整え、昨年度に開設したこども家庭センターを中心に、ヤングケアラーの早期発見や相談しやすい環境づくりに努めます。

#### (3) 関係機関と連携した支援

ヤングケアラーの早期発見や支援においては、児童生徒が通う「学校」や生活している「地域」や「家族」、相談支援を行う「行政」が連携していくことが必要です。普段から児童生徒と接する「学校」や「地域」での見守りいただくなかで、情報連携を密にし、引き続き、事業の推進を進めるほか、今後の必要な施策について検討します。

- (1) 調査結果の数値は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で表記しています。  
ただし、年代別や経年変化などの母数が異なるものを比較する場合は、割合の差（ポイント）で表記しています。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、回答比率の合計が、100.0%にならない場合があります。また、複数回答可の質問では、回答者数（n）に対する回答比率のため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには0.0%と表記しています。
- (4) 本報告書では、なるべく調査票そのままの表現を用いていますが、スペース等の関係から一部省略した表現としている箇所があります。
- (5) 回答者数が少ないものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考値として示すにとどめている場合があります。